

## 第 4 章

### 公開授業・公開検討会 (ベストティーチャー賞)



## 第4章 公開授業・公開検討会(ベストティーチャー賞)

### 1. ミニ公開授業・ミニ公開検討会

#### ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(前期)

授業名	担当教員
春からのキョウヨウ教育必勝法B(学際)	杉原 真晃
未来学へのアプローチ (教養セミナー)	杉原 真晃
唱歌と流行歌 - 西洋音楽の導入と折衷の歴史を聴く - (芸術)	鈴木 涉
エレクトロニクスと社会(教養セミナー)	中川 清司

#### ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(後期)

授業名	担当教員
秋からのキョウヨウ教育必勝法B(学際)	杉原 真晃
未来学へのアプローチ (教養セミナー)	杉原 真晃

### ミニ公開授業・ミニ公開検討会アンケート結果

授業科目名 :

授業者担当者 :

授業日時 : 月 日 ( ) : ~ :

設問 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問 2 今回の授業を公開・参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問 3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

#### 【前期】

#### ミニ公開授業 1

授業科目名 : 未来学へのアプローチ

授業者担当者 : 佐藤 慎也・栗山 恭直・杉原 真晃

授業日時 : 5月15日(金) 14:40~16:10

授業参観者のアンケート

参観者:学外

(設問 1)

今日は「作業の日+健康診断」だったので、メリハリに欠け

たかなあと思います。それでも(恐らく)前週からのつながりで、学生たちは作業に集中していました。

(設問 2)

これだけ学生が熱中するようなワークを取り入れてみたい。

(設問 3)

特になし

授業科目名 : 未来学へのアプローチ

授業者担当者 : 佐藤 慎也・栗山 恭直・杉原 真晃

授業日時 : 7月3日(金) 14:40~16:10

授業参観者のアンケート

参観者:学内

(設問 1)

・プレゼン前の班ごとの準備作業:PCが1台だけで入力は一人ではできないため他の学生は所在なさそうだった。

・USBメモリーを持ってきて正面のPCに接続するほうが、各班のPCのファイルを反映させるより早かった。

(設問 2)

・設備の良い点:机・いすが可動式でグループが作り易い。固定式教室でのグループ作業は難しいと感じている。

・ピア・レビューの際、正面のスクリーン(エクセル)に即座に結果が示され便利。

・ピア・レビューで評価の理由を述べている。自分の授業にも取り入れたい。

(設問 3)

特になし

#### ミニ公開授業 2

授業科目名 : エレクトロニクスと社会

授業者担当者 : 中川 清司

授業日時 : 6月25日(木) 13:00~14:30

7月 2日(木) 13:00~14:30

授業者のアンケート

(設問 1)

登録の学生数が多い(92人)なので、ゼミナールらしく、学生からの発言を入れて考える講義にするのは難しい。

質問をしてもらいやすくするために、学生への問いかけを何回か行ったが、反応は今一つのところであった。

授業終了後に確認に来る学生もあり、その点はよかった。工学系の話題と社会生活とのかかわりなど、幅広く関係付けを心がけた。特に今年は時間割の関係から工学部・理学部の学生がほとんどであり、専門基礎へつながっていくように講義内容について工夫した。

関数の取り扱い(高校の復習程度)についてのミニッツテストや中間試験で、誤解答の学生もあり、勉強の習慣づけも必要と感じた。

(設問 2)

(設問 3)

教科書、配布した予習復習のための要約図表のためのプリント、プロジェクトを用いた講義のしくみにした。その結果

#### 第4章 公開授業・公開検討会(ベストティーチャー賞)

ミニ公開授業・検討会で、非常にわかりやすい抗議であったとの意見をいただき、講義手法として少し進歩したのかと喜んでいる。

ミニ公開授業・検討会での御意見は講義を受ける側からの感想を示しており、参考になる。ご多忙中に係らずご参加いただいた先生方に感謝致します。

##### 授業参観者のアンケート

参観者1:学外

(設問1)

教養教育という幅広い分野を、丁寧に、きめ細かく授業されてらっしゃいました。

また、授業内容を理解するのに、必要となる基礎知識も、また実例などもテキストに十分に盛り込んでいらっしゃり、非常に理解しやすかったです。

(設問2)

中川先生の教材は非常にわかりやすく、参考になりました。今後、自分の担当授業でも教材作成に取り組みたいと思います。

(設問3)

この度は、公開授業に参加させていただき、ありがとうございました。私自身も授業をすることで今後の参考にさせていただきたいと思います(当校でも少しずつFD活動、授業改善など取り組んでおりますが、やはり、まだ公開授業まではできておりません。ミニ公開授業の企画、考え方等も大変参考になりました。)

参観者2:工学部

(設問1)

事前の資料準備、特にパワーポイントが充実していると感じた。又、専門分野の話に加え、その周辺の話題に触れられているのが良かった。

(設問2)

専門の話だけでなく、周辺の話を含めて学生の興味を深められる授業を行いたいと思う。

(設問3)

専門の授業と異なり教養教育では学生の興味の度合、知識の深さの個々の学生でばらつきが大きいので、授業の難しさを感じた。

参観者3:工学部

(設問1)

パワーポイント主体の授業は一方的な伝達になり易いので、双方向性を持たせることが難しいと思う。しかし、1.5時間の授業のなかに10個のクイズを入れると学生の興味を持続させることができる。

(設問2)

私の授業は板書(専門科目)主体なので、パワーポイントによる授業には抵抗がある。一方的な授業であると学生は資料を見るだけで、わずかな学生だけがノートを取っていた。もう少し参加型にできると。

(設問3)

授業参観を週に2回行っているが、工学部内容の教養教育のあり方については、難しさを感じた。

【後期】

ミニ公開授業1

授業科目名 : 未来学へのアプローチ

授業者担当者 : 佐藤 慎也(栗山 恭直)・杉原 真晃

授業日時 : 11月6日(金) 14:40~16:10

##### 授業参観者のアンケート

参観者:学外

(設問1)

時間配分を明示して授業を進めていて、メリハリがある。

(設問2)

(設問3)

学生が検討会に参加することで、授業そのものの本質・目的に早期に気付くことができると思う。自校でも取り込んでいきたい。

ミニ公開授業1

授業科目名 : 未来学へのアプローチ

授業者担当者 : (佐藤 慎也)・栗山 恭直・杉原 真晃

授業日時 : 12月11日(金) 14:40~16:10

##### 授業参観者のアンケート

参観者:学外

(設問1)

学生たちが自由な雰囲気で発想していることに感心した。授業者の佐藤先生も学生が自由に発想し発言し易い雰囲気を作っておられる。

(設問2)

学生の関心を引くために、これまで授業者自身への関心をひくようにこれまで工夫してきた。学部教育と短大の教養教育は一概に比較できないとしても、「学生主体の教育」の意義と、「心地よさ」とでも言うべき、この授業の創造性に学ぶ所が大きい。

(設問3)

目指すところと、その実践がとてもよく理解でき、百聞は一見にしかずだと感じ大変勉強になった。授業後のリフレクションでは、踏み込んだ意見が交わされており、学生たちも考察を深めている様子で、久しぶりに学ぶことの意味を考えさせられた。とてもよい刺激を受けた。

&lt;資料&gt;

平成 年 月 日

学部

殿

教育方法等改善専門部会部会長  
中 島 勇 喜

「ミニ公開授業・検討会」へのご協力について(依頼)

教養教育では、平成12年度から、授業改善のための「公開授業」と「公開検討会」を実施しております。公開授業と検討会は授業改善のためにとても有効な方法ですが、自分の授業を不特定多数に公開し、その検討会を実施することに躊躇なさっている先生方が多いのもまた事実です。そこで、本委員会では、昨年同様、教養教育改善充実特別事業の一環として、「ミニ公開授業・検討会」を行うこととしました。

「ミニ公開授業・検討会」は、授業を公開する先生が、自分が決めた特定の日に、気心の知れた3~5人の教員(学部や専門分野は問わない)に、あらかじめ声をかけて参観してもらい、その後そのメンバーでおおよそ30分程度、授業の検討会を行ってもらうものです。あくまでも授業改善のためですので、授業者が授業の改善に利用するのはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてもらおうとの趣旨です。本委員会としては、山形大学に「ミニ公開授業・検討会」が拡大し、授業改善が進んでいくことを期待しています。

このたび、平成21年度 期に教養教育の授業を担当されている方全員にご案内した上で、上記の趣旨をご理解いただける方に、「ミニ公開授業・検討会」にご登録していただくこととしました。登録していただいた授業を、委員会のメンバーが参観したり、検討会に出席することはありません。委員会としては、検討会終了後に授業者と参観者にそれぞれA4版1枚程度のアンケートに記入していただき、それを今後の授業改善の資料にさせていただきたいと考えています。アンケート項目としては、授業者と参観者に共通の3つです。

今回の授業の感想を自由に記述してください。

授業を公開・参観して、ご自分の授業をどのように振り返られましたか。

ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。

この「ミニ公開授業・検討会」にご協力いただける方は、下記に公開日時と参観者名を記入の上 月 日( )までに学生センター1階入口横の高等教育研究企画センターBOXへご提出ください。公開日時が未定の場合はその旨お書きください。また、実施当日に参観者が変更になっても構いません。なお、登録いただいた方には、後日、「ミニ公開授業・検討会」のアンケート用紙をお届けします。

登録いただいた授業を事前に学内に案内することはありませんが、授業改善に興味のある方に幅広く公開して実施されることをご希望の方は、下記の記入表の欄にチェック印をつけてください。

また、昨年度の様子については、平成20年度本委員会報告書「教養教育 授業改善の研究と実践」P.255~をご覧ください。(お持ちでない方は、高等教育研究企画センター(内線4707)までご連絡ください。)

----- 切り取り線 -----

私は「ミニ公開授業・検討会」を以下のように実施する予定です。

所属： 学部 氏名：

[ ]

実施日時：平成 年 月 日( ) 校時

参観予定者：

この授業は、参観予定者のほか、参観を希望される方に広く公開します。

<資料>

平成 年 月 日

「ミニ公開授業・検討会」登録教員 各位

教育方法等改善専門部会部会長

中 島 勇 喜

「ミニ公開授業・検討会」の授業者と参観者に寄せて

このたびは、「ミニ公開授業・検討会」の実施にご協力いただき、ありがとうございます。ご存知のように、「公開授業・検討会」は、授業者のみならず、参観者の授業改善においても、とても有効な方法です。

しかしながら、授業方法と同じように、「公開授業・検討会」の最善の実施方法は、いまだ確立されておりませんし、多様な授業方法がある限り、これからも確立されるとは思いません。本委員会としても、方法論についてはこれからも研究を積んでいかなければなりません。授業者改善の方法として有効に活用されるならば、多様な方法があつてしかるべきだと考えております。どうか、ご自分流の方法を編み出してご教示いただければと思います。

そうした前提を踏まえた上で、「ミニ公開授業・検討会」が、より実りあるものになるように、ここではこれまで本委員会で研究して参りました、「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点を、別紙のようにまとめました。ご参考になれば幸いです。

なお、検討会の終了後に、別添のアンケートを授業者と参観者にご記入いただき、学生センター1階入口前・高等教育研究企画センターBOXへお届けくださいますようお願いいたします。

<資料>

「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点

1 今回の「ミニ公開授業・検討会」が終了した後、授業者が授業の改善に利用することはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてください。

「また自分の授業を公開しても良い」「今度は自分の授業を公開しよう」といった積極的な姿勢を持てるような、内容のある、明るいムードの「ミニ公開授業・検討会」としてください。

2 授業者は、普段どおりの授業を心がけてください。参観者は授業に介入しないよう、参観する位置についても考慮してください。なるべく、学生の注意が参観者に向かないことが望まれます。

3 参観者は、学生と一緒にあって授業だけに集中しないでください。大切なのは、授業中の学生の反応です。授業の内容や授業者の行動の変化によって学生は敏感に反応しているはずです。学生は、どのような時に授業に集中し、どのような時に集中力を失っているのでしょうか。

また、今回参観した授業が、15回分（初修外国語の場合は30回）の1回だということに留意してください。今回の授業がその授業の全体ではありません。それと同時に、授業は、それまでに築き上げられてきた学生との関係によって成立していることも忘れないでください。

4 教室の環境などにも留意してください。授業の大切な構成要素です。

5 検討会では、参観者が授業を褒めることから始めてください。授業者のコメントから始めると、ひたすら反省の弁を述べ続けることになる恐れがあります。最初に授業を褒めることが、その後の授業の分析や批評の妨げになることはないはずです。

<資料>

## 「教養教育ミニ公開授業・検討会」アンケート

授業改善の資料としますので、以下のアンケートにご協力ください。

山形大学教育方法等改善専門部会

授業科目名：『	』
授業担当者：（	）

所属等 ( 授業者 ・ 参観者 )

所 属 : ( )

氏 名 : ( )

参観日時 : 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分

- 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。
- 2 今回の授業を公開・参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。
- 3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。

学生センター1階入口前・高等教育研究企画センターBOXにご提出ください。

## 2. ベストティーチャー賞

## はじめに

本原稿を書く前に Google で「ベストティーチャー賞」を検索した。すると昨年に続いて本年も約 318,000 件のトップに山形大学教養教育ベストティーチャー賞授賞式開催の様子が登場した。相変わらず注目度が高い。検索には、本学の後に、群馬大学、鳴門教育大学、中央大学、拓殖大学、千葉大学、奈良女子大学が続いていく。近年、全国の大学においても、ベストティーチャー賞は普及してきている。

昨年の報告書にも書いたが、改めて誤解のないように記すが、本学のベストティーチャー賞は「学生による授業評価」だけで選んでいるわけではない。本学の選考の主な特色は、①3名(新人賞は2名)の推薦者による推薦状の提出、②改善専門部会によって、推薦書、授業改善アンケート、履修登録者数、教育方法の工夫・改善、教養教育改善充実特別事業(FD)の参加・貢献等を勘案し、選考を行うこと、③対象者に非常勤講師も含めること、④ベストティーチャーに選定された教員は授業の公開と懇談会が義務付けられていること、の4点にある。

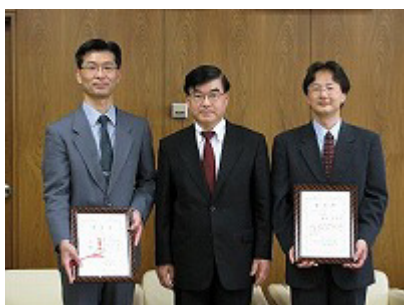
これまでベストティーチャーに選定された教員は、その称号を様々な場面で活かすようになってきた。主催者側としては嬉しい限りである。一層、個人的かつ組織的に活用されんことを望む。

ベストティーチャーの公開授業には、学内外から多数の参観者がある。学長を始め理事も参観したことがある。ベストティーチャーの授業からは多くのことを学ぶことができる。さらに、授業後の懇談会に参加することによって、より具体的な工夫や苦心を本人の口から聞くことができる。是非とも、ベストティーチャーの公開授業と懇談会に参加していただきたい。良い授業を見学するせっかくの機会なのだから。

主催者側が今一番望んでいることは、ベストティーチャー賞やその新人賞に多数の応募があることである。もしかすると、3名の推薦人が負担となっているのかもしれないが、決して学部や学科を通す必要がないので自由に応募していただきたい。

山形大学のFDは、良い事例によって授業改善を牽引してもらうことを願っている。ベストティーチャーの意欲やスキルを公開し、それを共有化することによって、さらなる授業改善を進めていきたい。

本ベストティーチャー賞の要項は以下の通りである。本年度の「ベストティーチャー賞」には2名の方が選ばれた。



## (1) ベストティーチャー賞受賞者

地域教育文化学部 大澤 弘典 教授

## (受賞理由)

特筆すべきことは、氏が平成20年度前期に学際・総合領域で開講した授業『生活の中の数学(教養セミナー)』が受講生50名のうち45名が回答した「学生による授業改善アンケート」で総合評価が4.93という驚くべき高い評価を得ていることである。氏は、(1)学生のグループ活動、(2)道具作りなどの実践を通した学び、(3)適切な授業の題材選び、等を通して学生の興味・関心を高める工夫を行っている。こうした氏の熱意と創意工夫が、学生からの高い支持を得ているものと理解できる。また、氏は「FD 合宿セミナー」等のFD活動に積極的に参加している。

理学部 岩田 尚能 講師

## (受賞理由)

氏が平成18年度から20年度に亘って生命・環境領域で開講してきた授業『地球惑星科学概説(地球環境学C)』は、「学生による授業改善アンケート」で総合評価が4.44という高い評価を得てきた。これは氏が「教養教育ワークショップ」、「FD 合宿セミナー」、「ミニ公開授業」等のFD活動の積極的な参加、さらには常日頃から授業科目に関連する本を同僚も驚くほどたくさん読むなど、授業改善の日常的な研鑽の成果であると言える。また、氏は掲示資料をLMSで見られるようにするなど、時間外学習にも十分な配慮を行っている。

なお、岩田氏の推薦書には、3名の推薦者が授業を参観して分析した内容が詳しく述べられており、推薦書として秀逸であることを申し添えておく。

## (2) ベストティーチャー新人賞受賞者

該当者なし

## (3) 公開授業・懇談会

## 【公開授業】

日時 :平成21年6月25日(木)10:30~12:00  
講義室 :115番教室(教養教育1号館1階)  
授業名 :故事成語に見られる「知」の諸相(文学)  
担当教員:三上英司(地域教育文化学部教授)





【懇談会】

日時 :平成 21 年6月 25 日(木)12:00~12:40  
会場 :高等教育研究企画センターミーティングルーム

懇談会記録

出席者

授業者 三上英司(地域教育文化学部)  
参加者 小田隆治 委員(地域教育文化学部)  
若林身歌(教職研究総合センター)  
杉原真晃(高等教育研究企画センター)  
酒井俊典(エンロールメント・マネジメント室)  
遠藤正章(教養教育ユニット)  
鶴岡工業高等専門学校教員  
仙台大学教員  
埼玉県立大学教員



参加者1

- ・学生の日常に近い話と故事成語の話がマトリョウシカ人形のような構造の授業になっている。
- ・毎回のコメントシートにのせておられるそうですが、この授業の目的にある「知」とか「知性」とは先生はどのように思い描いておられますか。

授業者

- ・「知」というものはどういうものであるかを自分の中で再認識、再構成してもらおう。
- ・この授業は、何かを覚える・教養としての知識を手に入れるだけではなく、教養を身につけた人間として要求される能力、思考するというもの、その訓練を行うもの。
- ・そのために漢文というツールを使う。
- ・自らの「知」とは何ぞやという問いを投げかけて、自分なりに手に入れられる。その態度と能力を身につけて欲しい。

参加者2

- ・すごいひきこまれる話。
- ・家庭の話やご自身の話など、挿入話が全体の中でいいタイミングで入っていて、ゆったりとしているけれどもダイナミックに話が展開していて、非常に面白い。
- ・授業終了後、受講学生に「この授業、どう」と聞いてみたら「面白いです」という答えが返ってきた。
- ・寝ている学生がほぼいなかった。

授業者

- ・学生は、「すみません不覚にも寝てしまいました。…」と、あの授業で寝ていることを出席カードに書いてきてくれる。

- ・その意識があると次回のモチベーションが上がる。

参加者3

- ・漢文の世界と学生の日常とを行き来しながら、話の軸はたくさんあるけれども、最後に集約させたいところに、深められていた。
- ・学生の声を活かすというのがこういうことなのだなと実感させられた。
- ・学問の一番の面白みというのを伝える大切さを認識した。
- ・コメントカードには、どういふものが多いか？

授業者

- ・今回の授業で使ったものは、「朝三暮四という言葉がびったりと当てはまる事例を、自分の身の回りから出してください」というもの。
- ・聞き方も正解が一つにしかならないような聴き方はしていない。「このことを書いていなかったからダメだった」と学生が思ったら、モチベーションが下がってしまう。
- ・読み手心に響くものを 15 回の中でそれぞれが感じてほしい。

参加者4

- ・学ぶ姿勢、方法が提示されていた。
- ・刺激的(知的刺激あふれる)講義であった。
- ・物を考えていくときのありようにつながられていた。
- ・学生に身近な話をからめて講義をしていた点がよかった。
- ・学生の人格を大切にしている点など大いに真似したい。
- ・学生の価値観を大切にしている素晴らしいと思う。

参加者5

- ・コメントカードはどのようなものか？

授業者

- ・出席カードをかねている。
- ・授業の最後だけ来て、書ける質問ではなく、通して聞いていないとかけてないようなことを聞くようにしている。
- ・「書けないことが恥ずかしい」と学生が感じるように授業づくりをしている。
- ・学生がまわりと相談して書くのではなく、自力で書けるようになるのが授業の目標である。
- ・思い浮かばなくとも、それに七転八倒するのを経験してほしいと思っている。

参加者5

- ・授業の最初には毎回あのように質問に答えるのか？

授業者

- ・30 分くらいは使う。
- ・この時間を前置きとしつつも、中身に入るモチベーションが上がるようにしている。
- ・教養教育段階で、1 年生が自ら前回の内容を復習するのは困難。
- ・授業の前半の 30 分でそれを体験してもらおうというのも一つのねらいである。
- ・シラバスに関しては、5割6割の授業時間でやれるものを設定し、その分、この授業前半の時間に力を入れている。

参加者6

- ・学生が寝てなくて、驚いた。
- ・知識偏重の授業になりがちであった。

授業者

- ・FDは続けていくことが大切。
- ・他者の目を常に意識するだけで、授業は大きく改善すると思う。
- ・専門と教養との教え方は若干違う。

参加者6

- ・学生がいろいろな学部の子がいて、どのあたりに照準をあてるかというところに迷う。

授業者

- ・教養で、多様な学部の子が集まるほうがよいと思う。
- ・単純に面白おかしいというのでは、つづかない。

参加者7

- ・授業に引き込まれる。
- ・マイクは使わないのか？

授業者

- ・マイクは120人を超えたときしか使わない。
- ・文学は微妙なニュアンスが大切。音読とそうでないときの違いがわからなくなる。
- ・マイクを使うことで、起きる弊害もある。

参加者8

- ・この授業の特色は何なのか。言葉というものの重要性。
- ・語りの芸になっている。
- ・英語などの使用は必要なのか。
- ・授業の設計がしっかりできている。

授業者

- ・寝ている者がいるということが問題なのではなく、その後になんか残ることが残ることが大切。
- ・学ぶ人間としての基礎をつくるのが教養教育の大きなねらい。
- ・英語の使用に関しては、言語はグローバルなもの。
- ・日本語に概念語が少ない。
- ・英語を入れたことを検証する。
- ・余談を使わずに90分講義できるようにしたいというのは、目標としてある。

公開授業・懇談会アンケート結果

設問1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問2 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。



○授業参観者のアンケート

参観者1:理学部

(設問1)

- ・はじめ声が小さいかなと思ったが、学生の私語もなく、中盤以降聞きやすくなった。
- ・やわらかで、ゆつくりとした、丁寧な話し方、適度なボディアクションが印象的である。
- ・寝ている学生がほとんどいない。すごい！
- ・プリント等の配布が上手い。
- ・考えさせる問題→難しい。

(設問2)

- ・パワーポイント、DVD、LMSに頼らない、今回のような授業スタイルで試されるのが本当の授業力なのかかもしれない。自分には無理。
- ・本筋に戻る際のきっかけが、はっきりと学生に伝えているので、メリハリが利いているのだろう。自分の講義を反省する。

(設問3)

懇談会には会議があるので出られません。すみません。普段、理学部の教員の講義を見学することは多いが、他学部の講義を見学する機会が少ないので、とてもありがたい。

参観者2:学内

(設問1)

- ①漢文の世界と学生の生きる現代の生活世界を行き来しながら深めていく。話の内容を多岐に渡らせながらも、ズバツと本時の内容(課題)に収れんしていく展開が非常に見事でした。
- ②学生の生かし方として対話をしながらという形ではないが、ミニレポートに書かれたものを十二分に次時の内容に反映させるという所が参考になりました。
- ③学生が話に引き込まれ次第に頭が上がってくる様子が印象的だった。

(設問2)

- ①本当に学生の声を生かすという点で、まだまだ甘い。十分に生かし切れていないという点を反省しました。
- ②学生主体の授業作りという点で、活動やパフォーマンスに甘んじていないか。もっとプロとして学問の面白さ、奥深さをストレートに講じる必要があると考え直しました。
- ③もっと言葉・話術を磨こうと思います。

(設問3)

初めて出席させていただきましたが、大変勉強になりました。ありがとうございました。

参観者3:学外

(設問1)

先生の熱意が伝わってきました

(設問2)

非常に「質問に答える」時間を作るとは参考になりました。(学生が、振りかえりをおこなっている様子を感じました。)

(設問3)

- ・学生が集中して聞いていたので、学生のニーズに合わせて

いる。

- ・内容を工夫されているのかな、と感じました。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・懇親会は色々と先生方の感じ方を知ることが出来る機会となった。

参観者4:学外

(設問1)

- ・このような授業を学生時代にもしなかったので大変新鮮に感じました。
- ・私自身が教えている授業と比較すると、眠っている学生が少ないと感じました。科目は選択でしょうか？

(設問2)

テキストに対する例示が大変豊かであったと感じました。私自身は「神経学」「老人科学概論」を教えている関係で、今日のような例示は出来ませんが、是非自分の授業にも取り入れたいと思います。

(設問3)

本学でもこのような公開授業/懇親会が出来るように頑張りたいと思います。

参観者5:学外

(設問1)

全体として「学ぶことの姿勢」「学ぶ際の方法の提示」をしっかりとされている。大変刺激的(知的)な講義であったと思います。学生に対して、丁寧に知識を伝える手ぎわ、知識に血を通わせるための工夫には、ワクワクしました。通して受講したいです。

(設問2)

笑顔、静かな話し方、遅れてきた学生への配布物を手渡しされるなど、学生の人格を大切にされている点など、大いに真似したいです。「御免!」「OK?」など、まっすぐに言える教員になりたいです。最後の価値判断を学生に委ねる程、(学生に対して)責任のある講義内容・展開には頭が下がりました。見習いたいと思います。

(設問3)

自分自身の大変なリフレッシュになりました。明日はがんばろうと思いました。

参観者6:学外

(設問1)

笑顔で学生に向かって語りかける講義で大部分の学生が集中して聴いていた。

(設問2)

資料を示して説明する講義が中心であるが、もっと学生に向かい合う事が必要だと思った。

#### 【公開授業】

日時:平成21年7月15日(水)10:30~12:00

講義室:122番教室(教養教育1号館2階)

授業名:地球惑星科学概説(地球環境学C)

担当教員:岩田 尚能(理学部講師)



#### 【懇談会】

日時:平成21年7月15日(水)12:00~12:50

会場:高等教育研究企画センターミーティングルーム

#### 懇談会記録

出席者

授業者 岩田尚能 講師(理学部)

参加者 小田隆治 委員(地域教育文化学部)

斉藤和男(理学部)

元木幸一(人文学部)

滝澤真毅(山形短期大学)

杉原真晃(高等教育研究企画センター)

酒井俊典(エンrollment・マネジメント室)

黒沼毅(企画部経営企画ユニット)



参加者1

- ・学生の携帯電話からメールを送らせて出席をとる、という方法に驚いた。

授業者

- ・授業用のアカウントに送ってもらっている。出席をとる時間帯を毎回変えることで不正を防いでいる。

参加者1

- ・授業の最後の課題をBlack Boardの掲示板に書かせることについて、どのような議論が出てくるか楽しみ。

授業者

- ・昨年度は「課題」提出をBlack Boardで行ったが、うまくいかなかった。そのため、今年は掲示板機能を活用することにした。

参加者 1

- ・(授業者)は淡々と話す印象をうけた。でも、ビデオ上映の時も含め、寝ている学生は少なかった(最大 8 人)。私語も少ない。パワーポイントの提示をノートをとっている。

授業者

- ・寝ている学生は今日は少なかった。普通はもう少し多い。今日は課題とビデオが関係することを始めに伝えたのでビデオの時も起きていたと思う。
- ・パワーポイントの切り替えが早くてノートが取れないという意見が出たことがあり、今年は LMS に授業の資料を掲載するようにしている。
- ・ビデオ上映の際に扉を開けているのは、上映中にメモをとれるようにするため。暗くてメモが取れないという意見が学生から出たため。ダウンライト等、蛍光灯を消してもメモが取れるような教室が必要。

参加者 2

- ・LMS はみんな利用している？

授業者

- ・そんなに多くはない。課題を出すアクセスが増える。
- ・LMS を使った 1 年目は 1 週間だけ資料を掲載していた。学生から長期間掲載してほしいという声が出たので、継続的に掲載するようにした。
- ・1 年目は、LMS での課題提出の率が 6 割と低かった。それは学生が LMS を使えない、課題提出の画面にたどり着けないことが原因であった。

参加者 3

- ・ビデオは私のよく使用する。30 分がよいか 1 時間がよいか、1 時間だと学生が飽きることもある。この授業では映像とその後の課題が有機的に関連していたため、学生は寝ないし視聴しながらメモをしっかりとっていた。

参加者 4

- ・ドキュメンタリードラマのビデオだったが、その意図は？

授業者

- ・去年は試験の後にこのビデオを見せた。来年見せようと思うがどう思うかをその時に学生にたずねたところ、考えさせられるビデオだったので見せてもいい、という意見が多かったので今年見せた。
- ・ビデオはたまたまテレビで見つけたので録画した。現実の生活に近いのでおもしろい。

参加者 5

- ・ビデオはちょうど使えそうなものがなかなかない。相当蓄積していかなければ。
- ・この科目のカリキュラム上での位置づけは？

授業者

- ・地球環境学 A、B、C、D のうちの C。地球環境学に興味を持ってもらうことが目的。高度なことはやらず、基礎的な知識を試験する。

参加者 6

- ・映像も LMS にあげては？

授業者

- ・著作権的に難しい。

参加者 3

- ・CS のサイエンスチャンネルで公開されているものもある。

授業者

- ・LMS に掲載できないものは、図書館で見られるようにするとよいのではないかな。

参加者 1

- ・シラバスに「参考資料」の欄に書いておけば図書館が買ってくれる。

参加者 7

- ・「教養教育」として、あのビデオはすばらしい。地学だけでなく、経済、政治、生活などさまざまな要素が含まれている。

参加者 2

- ・授業の展開や LMS の利用について、学生の反応を見ながら毎年変えていっていることはすばらしい。
- ・ビデオ上映中に学生がメモをとることも、自動的に始めることではない。指導しているためであろう。それもすばらしい。

参加者 3

- ・スライドも目次が出ていてすばらしい。

参加者 1

- ・今後の予定の告知も、なかなかできない。それがなされていた。すばらしい。

公開授業・懇談会アンケート結果

設問 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問 2 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問 3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。



○授業参観者のアンケート

参観者 1: 人文学部

(設問 1)

LMS の活用は面白い。掲示板の使用がどうなるか、人数が多いと大変かも。参考書を示すのは良いと思った。

(設問 2)

LMS はレジュメの DL のためにしか利用しておらず、掲示板の使用は参考になった。

(設問 3)

なし

参観者 2: 人文学部

(設問 1)



出席の取り方にびっくり。LMSを使った意見交換は大変興味深い。

(設問2)

長くビデオを見せることも意外に可能だとわかった。

(設問3)

授業と同じように、たんと冷静にお話になる先生で好感を持った。それにしても、いつも思うのだが、山大生はまじめだなあ。

参観者3:理学部

(設問1)

ビデオを見ていたときは少々長すぎるかと感じたが、その後の解説、ブラックボードを用いた課題(意見交換)と有機的に結びついていた。

(設問2)

LMSを使いこなそうとしている点に大いに感銘を受けた。若さはうらやましい。

(設問3)

情報交換の場として有益であった。

参観者4:理学部

(設問1)

・取り上げられた番組は、石油(資源)問題が人類にとっての地球環境問題の柱の一つであることが実感される大変興味深いものであった。数多くの番組の中からこれを取り上げるに至った日頃の番組のチェックなどの地道な努力が察せられる。

・パレル、ガロンなどの単位の説明があると直接的にどの位の量があるか分かると思われます。

・ppとシートは、字が大きくかつ簡潔で見易くわかり易かったです。図表は字が小さかったですが、学生は各自持っているようなので問題ないでしょう。

・課題の論議がどのようになったか興味深いです。短絡的なもの以外に深い理解が得られたならば大成功と思います。

(設問2)

・授業に利用でき、最新の技術を適宜取り入れるようにするのは非常に効果的と思いました。

・録画番組を使用する際に、特に終盤に眠ってしまう学生がいる。それを避ける方法を考えるべきと思われます。

・番組に学問的な内容に加えて、製作者の考えが反映された学問的以外のものが多く含まれている場合、それに対して何らかのコメントは必要かどうかと考えさせられました。

・LMSの掲示板を用いた公開討論は試してみたいと思わせるものでした。

(設問3)

・授業を客観的に見ることができ、今回はとても参考になった。

・但し、他の業務が多すぎるため、参観する時間が取り難い。

・講義室に大きな時計があると便利です。

・スクリーンにはやや光が反射し、白っぽくなって見難い

です。講義室の問題と思われます。

参観者5:理学部

(設問1)

・出席メールを後でまとめるのは簡単な方法でできるのですか？

・DVDスクリーンを使うときは、ノートを取れるように1つだけ照明を付けておいたら学生には楽か？

・LMSを道具として使いこなしているのがすごい

(設問2)

・前方の座席にも学生が座っていて感心した。何か特別に指示しているのですか。

・スクリーンに映すテキスト文字の大きさが大きくてよみやすかったので参考になった。

・宿題としてLMSを使わせるという課題は学生の負担にならないか。

(設問3)

施設に対する要望

・スクリーンを1.5倍位に大きくして欲しい。(教室の座席数や広さにつりあっていない、もっと大きく)

・照明のつけ消しできる場所の組み合わせをもう少し小区画ごとにしてほしい。

参観者6:学外

(設問1)

ビデオは内容を理解するために有用であるが、90分の授業時間の中の50分は少し長いように感じた。LMSを使った意見交換は面白いと思った。

(設問2)

私は紙を使って質問や意見を聞いているが、ブラックボードの利用を考えてみたい。(メールでの質問受付は行っている)

<資料>

平成 21 年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞実施要項

平成 21 年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞実施要項

山形大学教育方法等改善専門部会

○趣旨

教養教育において、多くの学生に支持され、質の高い授業を提供してきた優秀な教員に「ベストティーチャー賞」を授与し表彰する。また、近年、本学に採用された新任教員のうち、教養教育において優れた授業を提供している教員に「ベストティーチャー新人賞」を授与し表彰する。

○賞

ベストティーチャー賞及びベストティーチャー新人賞とする。

■ベストティーチャー賞

◎対象者

対象者は次の各号に該当する者とする。ただし、前年度受賞者及び教育方法等改善専門部会（以下「改善専門部会」）委員は対象外とする。

- ①平成 20 年度において、1 つ以上の教養教育の授業を担当した者（非常勤講師を含む）。
  - ②平成 21 年度において本学に在職している者
  - ③別添「平成 21 年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞候補者推薦書」に基づき、3 名以上の本学の教員から推薦を得た者
- なお、推薦者は、候補者の授業（専門科目でも可）を実際に参観したうえで推薦するものとし、当該推薦について本人の了承を得ておくものとする。

◎選考方法

- ①賞の選考は改善専門部会が行う。
- ②改善専門部会は、推薦書、授業改善アンケート、履修登録者数、教育方法の工夫・改善、教養教育改善充実特別事業（FD）の参加・貢献等を勘案し、選考を行う。
- ③受賞者の決定にあたっては、応募件数、科目区分、領域を考慮し、3 名以内を選出する。

■ベストティーチャー新人賞

◎対象者

対象者は次の各号に該当する者とする。ただし、前年度受賞者及び改善専門部会委員は対象外とする。

- ①平成 18 年 4 月 1 日以降に本学に採用された者。
- ②平成 21 年 4 月 1 日現在で 40 歳未満の者。

③平成20年度に1つ以上の教養教育の授業を担当した者(非常勤講師を含む)。

④平成21年度において本学に在職している者。

⑤別添「平成21年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞候補者推薦書」に基づき、2名以上の本学の教員から推薦を得た者。

なお、推薦者は、候補者の授業(専門科目でも可)を実際に参観したうえで推薦するものとし、当該推薦について本人の了承を得ておくものとする。

#### ◎選考方法

①賞の選考は、改善専門部会が行う。

②改善専門部会は、推薦書、授業改善アンケート、履修登録者数、教育方法の工夫・改善、教養教育改善充実特別事業(FD)の参加・貢献等を勘案し、1名を選出する。

#### ○表彰

受賞者には、表彰状及び副賞として下記の研究費を贈呈する。

ベストティーチャー賞 30万円

ベストティーチャー新人賞 10万円

#### ○応募方法

期限までに、全ての事項に記入した推薦書を、以下の応募先に持参または郵送する。

応募先 山形大学高等教育研究企画センター事務室

(インフォメーションセンター2階)

締切 平成21年6月5日(金)17時

「推薦書」の様式は、山形大学のホームページから「教育案内」をクリックし、その中の「豊かな授業を目指して」からダウンロードしていただく。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kaizen/ksite/index.html>

#### ○その他

ベストティーチャー賞及びベストティーチャー新人賞受賞者には、素晴らしい授業の共有化を図るため、平成21年度前・後期の授業で公開授業を実施していただく。

(本件問い合わせ先)

山形大学高等教育研究企画センター

Tel 023-628-4707

Fax 023-628-4720

E-mail k3cen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<資料>

平成21年 月 日

山形大学教育方法等改善専門部会部会長 殿

平成21年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞候補者推薦書

候補者氏名 ( 歳)

所属 職名

電話

メールアドレス

私たちは、上記の教員を、平成21年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞候補者として推薦します。

推薦理由	
平成19年度 担当科目名	

推薦者名 所属 職名 氏名

推薦者名 所属 職名 氏名

推薦者名 所属 職名 氏名

(署名は、自筆のこと)



<資料>

平成 21 年 月 日

山形大学教育方法等改善専門部会部会長 殿

平成 21 年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞候補者推薦書

候補者氏名 ( 歳)

所属 職名

生年月日 昭和 年 月 日生

本学への採用年月日 平成 年 月 日

電話

メールアドレス

私たちは、上記の教員を、平成 21 年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞候補者として推薦します。

推薦理由	
平成19年度 担当科目名	

推薦者名 所属  
職名 氏名

推薦者名 所属  
職名 氏名

(署名は、自筆のこと)

平成21年度山形大学教養教育改善充実特別事業

# ベストティーチャー賞受賞者公開授業

教育方法等改善専門部会で実施した，平成20年度ベストティーチャー賞受賞者の公開授業を行います。

## 《公開授業》

日時 平成21年6月25日(木) 10時30分から12時00分

授業名 一般教育科目 文化・行動領域 文学  
『故事成語に見られる「知」の諸相』

授業者 地域教育文化学部 三上英司 准教授

教室 小白川地区 教養教育1号館1階 115番教室

## 《懇談会》

日時 平成21年6月25日(木) 12時00分から12時40分

会場 高等教育研究企画センター ミーティングルーム

内容 上記の授業を参観後，当該授業に対する懇談を行う



# みなさまの参観をお待ちしております！

主催：山形大学高等教育研究企画センター・山形大学教育方法等改善専門部会  
お問い合わせ：山形大学高等教育研究企画センター（023-628-4707）

<資料>

平成21年度山形大学教養教育改善充実特別事業

# ベストティーチャー賞受賞者公開授業

教育方法等改善専門部会で実施した，平成21年度ベストティーチャー賞受賞者の公開授業を行います。

## 《公開授業》

日時 平成21年7月15日(水) 10時30分から12時00分

授業名 一般教育科目 生命・環境領域 地球環境学  
『地球惑星科学概説』

授業者 理学部 岩田 尚能 講師

教室 小白川地区 教養教育1号館2階 122番教室

## 《懇談会》

日時 平成21年7月15日(水) 12時00分から12時40分

会場 高等教育研究企画センター ミーティングルーム

内容 上記の授業を参観後，当該授業に対する懇談を行う



## みなさまの参観をお待ちしております！

主催：山形大学高等教育研究企画センター・山形大学教育方法等改善専門部会  
お問い合わせ：山形大学高等教育研究企画センター(023-628-4707)